

一般社団法人日本母乳バンク協会

Japanese Human Milk Banking Association

寄附趣意書

ご挨拶

謹啓 貴法人におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。私、水野克己は、早産児、疾病のある児の栄養方法を改善するために 2017 年 5 月に設立されました一般社団法人日本母乳バンク協会代表理事を務めております。

言うまでもなく、赤ちゃんには出産したお母様の母乳が最適です。特に早く小さく生まれた赤ちゃんにおいては、母乳は薬とも考えられています。そうはいっても、母乳がなかなかでないお母様もいらっしゃいます。また、母乳が出ても母親の治療のために母乳を児に与えられない場合もあります。

そのような場合、海外では母乳が出るようになるまで（使えるようになるまで）の間、母乳バンクからドナーミルク（ドナーとしての基準を満たした女性から提供された母乳で、検査に合格し、かつ低温殺菌処理をした母乳）をあげることが一般的になっています。アメリカ小児科学会をはじめ多くの学会や機関は、お母様の病気や状況により自分の母乳をあげられない場合には、人工乳よりも母乳バンクから提供されるドナーミルクを優先して与えるように書かれています。その理由は、小さく生まれた赤ちゃんには、人工乳（粉ミルク）よりもドナーミルクのほうが未熟な腸管に負担がかかりにくいことと、腸管を成熟させる作用が期待されているからです。

先進工業国で母乳バンクがない国はほとんどありません。日本でも 2014 年より厚生労働科学研究（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）HTLV-1 母子感染予防に関する研究分担研究として昭和大学江東豊洲病院に母乳バンクを設立し、ドナーミルクを必要とする赤ちゃんに提供してきました。その経験をもとに、2017 年 5 月、日本中の NICU でドナーミルクを usable ようにするために一般社団法人日本母乳バンク協会を設立いたしました。2019 年には日本小児科学会・日本新生児成育医学会より「早産・極低出生体重児の経腸栄養に関する提言」も出され、日本の多くの NICU でドナーミルクを利用いただけるようになりました。

厚生労働科学研究費補助金事業で行っております「ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究」（主任研究者 水野克己：令和 2

年～4年)で行ったアンケート調査結果でも、現在ドナーミルクを利用していないNICU施設も過半数が今後、ドナーミルクを利用したいと回答しています。私たちは必要な赤ちゃんには必要なときに必要なだけ提供したい、それもご家族の経済状況によるのではなく医学的な必要性に応じて・・・と考えております。

本協会の趣意をご賢察の上、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。諸般厳しい情勢の中、誠に恐縮でございますが、何卒ご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら貴社の益々のご繁栄を祈念いたしております。

謹白

2021年6月吉日

一般社団法人日本母乳バンク協会

代表理事 水野 克己

(昭和大学医学部小児科学講座 主任教授)

振込先：

三菱東京UFJ銀行新稲毛支店 普通：0910697

振込先名：一般社団法人日本母乳バンク協会（シャダンホウジンニホンボニ
ウバンクキョウカイ）